

③ 実施報告書（本文）

V SSH中間評価において指摘を受けた事項のこれまでの改善・対応状況

（1）中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

（2）中間評価における主な講評（○主な評価・指摘事項、●改善・対応状況）

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

○データサイエンスの活用がゴールではなく、研究開発課題である「未来を構想し行動する科学技術系人材育成のためのプログラム開発」をどのように構築していくのかを意識して1つ1つの取組を進めていくことが望まれる。

●本研究開発課題の実現のために、本校独自のデータサイエンス探究プロセス「南高PDACA」を基盤に置いた「マスタールーブリック」をさらに改善し、目標を明確にした各教育プログラムの実施と、評価・分析システムの精度を高める取り組みを行った。また、教職員研修をとおしてデータサイエンスをSSHプログラムではもちろんのこと、様々な課題の解決や意思決定の場面においても活用できるものだという意識の啓発に取り組んだ。

② 教育プログラムの改善とノウハウの蓄積

○教育開発部等でSSHの取組が進められているが、企画部門とワーキング部門が明確になるよう工夫が必要ではないか。

●本校SSHの各プログラムの基盤を形成する持続可能な指導體制づくりに取り組んだ。具体的には校内でSSHを主管する企画開発スタッフと指導支援スタッフの配置を一部転換させて、後継人材育成及び運営組織の強化を図った。

③ 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

○データサイエンスを取り入れた課題研究を文理融合型で行っており、ノウハウを蓄積して題材としている。新しいSSH事業カリキュラムが編成・実施されているため、今後、成果が期待される。

●「複数の教科が連携した授業を行うことにより多角的な発想力を育て、またすべての授業において生徒の主体性を重視する対話的で深い学びを行うことにより、読解力、表現力を伸ばす」ことを目標に置いた、文理融合型・教科横断型教育プログラムの「DS読解」の改善に取り組んだ。その結果、ルーブリックによる評価全質問項目の平均値が、昨年度の1年次生(3.3)から今年度の2年次生(3.5)と0.2ポイント向上した。(④関係資料2-(1)参照、ただし今年度のデータのみ記載)

○データサイエンス教育に関しては教師の研修や教育のIT環境の充実が重要であるので、今後更に進めてほしい。

●SSH指定第2年次までは主としてICT機材の配備に集中的に取り組む、第3年次以降は継続して活用方法の研究に注力した。その成果として、ICT機材が「DS読解」「DS基礎」、各学年の探究学習(RAP)等の多様なプログラムで高い頻度で活用されている。また、今後ICT機材の更新に対して問題意識を持っており、現在の活用の水準を維持しながら円滑に更新する方法の検討が課題である。

④ 指導體制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

○全教師が探究活動を指導する全校指導體制を実施しているが、教師の意識が令和2年度から令和3年度で下がっているため、改善のための工夫が必要である。

●令和3年度の教職員の意識調査の結果については、全校指導體制の導入に伴う探究活動の指導への負担感の増加が一因であったと分析している。年間2回実施している探究学習の指導に関する教職員研

修や指導体制の業務分担の再検討を通して、より効率的かつ効果的な指導の在り方のブラッシュアップを図った。令和5年度の調査では2つの調査項目のいずれも0.1ポイントの上昇がみられた。(4)関係資料2-(4)参照)

⑤ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

○海外校との連携が充実しているため、今後、更なる取組の拡大を期待したい。

●今年度、本校として初めての海外研修旅行(イタリア・ボローニャ市)を行った。また、研修旅行に至るまでに「Liceo Fermi」、「Liceo Malpighi」、「メディチーナ電波天文台」、「ボローニャ電波天文学研究所」、「イタリア国立研究評議会マイクロ電子工学・マイクロシステム研究所」等の多くの組織や個人と連携することができたことは大きな成果であった。今後、この繋がりを一過性のものとせず、さらに深化かつ強固にすることで、継続的に本校の生徒の学びに活用したい。

○運動部等の活動が盛んに行われており、科学部の人数は限られているが、積極的に活動が行われているので、部員には課題研究のリーダーとしての役割も期待したい。

●科学部の1年次生に島根大学GSCへの参加を働きかけることで、積極的に探究活動に参加する意識や必要とする知識、技能の習得を図る。今後、第2学年次以降、科学部員として学年全体の探究活動のリーダーとしての活躍を期待している。

⑥ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

○HPの改善等積極的な普及活動が行われているので、今後更なる取組に期待したい。また、開発した教材を他校が活用してフィードバックを受ける等、具体的な広がり期待される。

●SSH指定第2年次に改編した本校のホームページにSSH専用のアーカイブを設置しており、本校の各SSHプログラムで開発した様々な情報を常に加えながらコンテンツの拡大に取り組んでいる。今後は継続的に掲載内容を精査しながら、他校がより活用しやすい情報の提供に取り組むたい。

⑦ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

※本文書は島根県立松江南高等学校「令和2年度指定スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告書・第4年次」の追加項目を記載しています。本書の36頁に差し込みをお願いします。